

アシストコンサルティングからのA4サイズ ニュースレター

ニュースレターは名刺を交換させて頂いた方へお送りしています。不要な場合はご一報頂ければ次回より停止いたしますが、この記事がご参考になれば幸いです。更に詳細情報が必要な場合はご遠慮なくお問合せください。今回のテーマは、、、『**IOT・AIの世界**』

●IOT, AIに関する基礎情報 =どんどん広がっています=

最近、新聞やニュースでよく耳にするキーワードがいくつかあります。IOT, AI, ビッグデータ, 自動運転, 等々です。特にAIは将棋の対局の記事や「将来なくなる職業」と言う記事もありましたが、「職業が消える」のではなく**働き方が変わると言った方が正しい**と思われまます。これらの進歩は相乗効果も相まってかなり早く、またその範囲もどんどん広がっているようです。そう遠くない未来に起こり得ることです。

さてIOT(Internet of Things)とは「モノのインターネット」と訳されますが、その正体は高性能・低価格化したセンサー、カメラ、クラウド、高速なデータ処理技術のネットワークシステムです。

先般の「もの作り補助金」の公募要領の中では次のように定義され、補助額が増額されていました。【単独機械の自動化や工程内の生産管理ソフトの導入にとどまらず、複数の機械等がネットワーク環境に接続され、そこから収集される各種の情報・データを①監視、②保守、③制御、④分析のいずれかを行うこと】

これは何を意味するののかと言うと、**中小企業においても IOT に取り組むハードルが低くなった結果、活用シーンが広がりつつある**言うことではないでしょうか。IOTを活用することで今まで勘や経験で行ってきた作業をデジタル化し改善に活かせるようになってきました。一例を挙げると、アメリカではゴミ箱に重量センサーをつけ満杯のゴミ箱を地図で示すようにしたところゴミの回収頻度及び費用が激減したそうです。

次にAI(artificial intelligence)とは「人工知能」と訳されますが、その意味合いとしては非常に曖昧なものになっており、広くはエアコンなどの家電製品のコントロールシステムがそう呼ばれることもあります。

AIは汎用型と特化型に分かれます。**特化型**は将棋のAIのように特定分野にのみ対応し、その成長に人が関与するものです。その分野では人間を上回る程のソフトも出てきています。一方、**汎用型**は特定分野に限らず、想定外の状況に置かれても自ら学習し新たに知識を得て対応、つまり自己成長を行えることに大きな特徴があります。故に**将来的には、人間の知的作業を代替し、さらに人間が実現しえない成果を生む可能性**があると言われていています。現時点でもAIの活用例があります。それは顧客への商品のリコメンド(推薦)に使用されています。現時点ではあくまで販売員とのコミュニケーションのツールとして使用されています。

●IOT, AI 活用のポイント

結局IOTは手段ですのでそれを導入するだけでは成功には結びつきません。そこに必要なのは、なぜ・何をしたいか“**現場の発想**”、そしてそこから“**デジタル化の対象+目的**”の**明確化**が必要です。

AIに関しては、まだまだ曖昧な印象でしょうが確実に現実生活に入ってきます。自動運転とAIは関係性が強いのですが、国は2020年の東京オリンピックに向けて自動運転の実現を目指しています。昭和39年の東京オリンピックの時の新幹線や東名高速の実現は技術的にも経済的にもインパクト大でしたが、今回もそれと同じ意味合いを持ちます。ただし53年後の今日においてはそのインパクト度はさらに大きいでしょう。

AIは他の技術や社会的構造変化と相まって、**ある時点を境に非連続的に急拡大する可能性**があります。その波及効果が、冒頭の働き方を含めて、中小企業にも及ぶこととなります。私達も自社でのIOT, AI等の活用の可能性の検討を行い、今後の動向を注視しておく必要があります。

最後までお読み頂きありがとうございました。